

宮崎県立宮崎病院

歯科医師臨床研修プログラム

(本院の理念)

地域とともに歩み

良質で高度な医療を提供する

患者さま中心の病院を目指す

(本院の基本方針)

- 1 私たちは、プライバシーの保護をはじめ患者さまの権利を尊重します。
- 2 私たちは、地域の人々のためによりよい医療を提供します。
- 3 私たちは、医療に携わる安全管理に最大の努力を払います。
- 4 私たちは、臨床教育、研究の充実図り、医療の質の向上を目指します。
- 5 私たちは、保健、医療、福祉との相互連携を進めます。

I 研修プログラムの概要

1. 研修プログラムの名称

宮崎県立宮崎病院歯科臨床研修プログラム

2. 研修プログラムの特色

1年間の単独型臨床研修を行うプログラムである。患者中心の全人的医療を理解し、すべての歯科医師に求められる基本的診療能力（態度、技能及び知識）を身につけるとともに、入院患者の治療体験による医科等他職種間の連携による口腔を診る歯科診療の基礎を体験・実践するプログラムである。

3. 研修プログラムの目標

歯科医師としての人格の涵養に努めるとともに、患者中心の全人的医療を理解し、すべての歯科医師に求められる基本的な診療能力（態度、技能及び知識）を身につけ、頻度の高い疾患や病態およびプライマリ・ケアに対応できる歯科医師を育成するための初期研修を行い、生涯研修の第一歩とすることとする。

入院症例の患者の主治医（指導歯科医）のもとで、術前・術後の全身管理に関して研修を行うなど、一般歯科医療はもとより口腔外科医療についても併せて、知識・態度・技能を修得するとともに、高頻度の疾患を中心に全身管理に必要な医学的知識の習得に努める。

4. 研修プログラムの内容

(1) 研修期間の概略

研修期間は1年間とする。

(2) 研修科目及び履修病院・施設

総合歯科診療研修（外来）並びに病棟研修（歯科口腔外科病棟）を当院にて12か月実施する。

《研修スケジュール（週間）》

	月	火	水	木	金
午前	外来診療	外来診療	外来診療	外来診療	中央手術室での手術
午後	外来手術又は病棟往診	中央手術室での手術、あるいは外来手術	外来手術又は病棟往診	外来手術又は病棟往診	中央手術室での手術

(3) 研修内容

- ① 診察の手順、検査の進め方および診察への導き方
 - 1) 問診
 - 2) 全身的、局所的現症の把握（診察、触診、聴診、打診）
 - 3) 一般検査Ⅰ：バイタルサインのチェック
 - 4) 一般検査Ⅱ：臨床検査成績、病理組織学検査の仕方とそのチェック
 - 5) 画像診断の適応、判読、画像診断の解剖学的理解
 - 6) スタディ-モデルによる審査、ペーパーサージェリー
 - 7) 顎・顔面・口腔の写真撮影、資料整理

- ② 疾患別診断と治療方針の立て方
 - 1) 炎症性疾患
 - 2) 感染症
 - 3) 顎・顔面外傷
 - 4) 口腔粘膜疾患
 - 5) ウィルス性疾患
 - 6) リンパ節疾患
 - 7) 唾液腺疾患
 - 8) 良性腫瘍
 - 9) 悪性腫瘍
 - 10) 嚢胞性疾患
 - 11) 顎関節疾患
 - 12) 顎変形症
 - 13) 先天性奇形
 - 14) 神経疾患
 - 15) 有病者の診察と診療上の注意

- ③ 外科の基本手技の修得
 - 1) 滅菌・消毒法
 - 2) 機械・器具の名称と使用法
 - 3) 注射法：点滴、静脈注射、筋肉注射、皮下注射
 - 4) 麻酔法：表面麻酔、浸潤麻酔、伝達麻酔
 - 5) 縫合法：縫合の手技、結紮の方法
 - 6) 止血法：局所的止血法、全身的止血法
 - 7) 試験穿刺法、試験切除法

- 8) 創傷への処置法：創傷の分類、創傷治癒の一般概念
 - 9) 救急処置：歯科におけるショックとその処置
 - 10) 口腔外科治療における偶発症とその対策
- ④ 口腔内小手術術式の修得
- 1) 抜歯術：乳歯、永久歯、埋伏歯
 - 2) 消炎手術：口腔内、口腔外からの膿瘍切開および後処置
 - 3) 補綴前の外科的処置：小帯切除術、歯槽骨整形術、骨隆起切除術
 - 4) 嚢胞摘出術
 - 5) 歯根端切除術
- ⑤ 薬物療法
- 1) 抗菌剤の選び方と使い方
 - 2) 消炎鎮痛剤の選び方と使い方
 - 3) 止血剤の選び方と使い方
 - 4) その他の口腔領域でよく使われる薬剤
- ⑥ 医科入院患者への高頻度治療
- 1) 齶蝕の基本的な治療
 - 2) 歯髄疾患の基本的な治療
 - 3) 歯周疾患の基本的な治療
 - 4) 抜歯の基本的な処置
 - 5) 咬合・咀嚼障害の基本的な治療
 - ・修復治療
 - ・歯冠、ブリッジの治療
 - ・義歯の治療
- ⑦ その他
- 1) 患者に対する診療上のマナー
 - 2) カルテ(診療録)の書き方
 - 3) 他科・他院への紹介状・返書の書き方
 - 4) 診断書の書き方
 - 5) インフォームドコンセント
 - 6) 周術期の管理と病棟での処置

5. 研修歯科医の指導体制

(1) 研修管理委員会の設置

副病院長を委員長とする下記メンバーによる研修管理委員会を設置し、研修プログラムの作成、研修プログラム相互間の調整、研修歯科医の管理や採用・中断・修了の際の評価など臨床研修の実施の統括管理を行う。

委員長	委員	事務局
副病院長	歯科口腔外科科長、歯科口腔外科所属歯科医、外部委員	事務部

(2) プログラム責任者の配置

下記のとおり、プログラム責任者を配置し、プログラムの企画立案及び実施の管理並びに研修歯科医に対する助言、指導、その他援助を行う。

区分	役職及び診療科	氏名
プログラム責任者	歯科口腔外科医長	伊藤 雅樹

(3) 指導医等の配置及び指導体制

臨床経験7年以上の歯科医（講習会受講者）を臨床研修指導歯科医とした。

なお、研修歯科医に対する指導は、現在の指導歯科医数により指導期間を均等割りするなど、複数の指導歯科医による指導を行うものとする。（例えば、2021年度は、指導歯科医が3人在籍しているため、4ヶ月ごとに指導医を変更する。）

《研修スケジュール（年間）》

研修歯科医	宮崎県立宮崎病院											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
研修医1	指導医A			指導医B			指導医C					
研修医2	指導医B			指導医C			指導医A					

6. 研修の評価・修了認定

(1) 研修の評価

指導歯科医は当院所定の評価表等などを用い評価を行い、プログラム責任者へ報告する。

プログラム責任者は、指導歯科医の評価を年度末に集計し、総合的に評価する。

(2) 修了の認定

1年間の研修修了時に、プログラム責任者は、研修管理委員会に対して研修歯科医毎の臨床研修の目標の達成状況を報告し、その報告に基づき、研修管理委員会は研修の終了認定の可否についての評価を行う。それを受けて病院長は修了の認定を行う。

7. 研修歯科医の募集定員、募集及び採用の方法

(1) 募集定員：2名

(2) 募集の方法：公募による

(3) 採用の方法：面接試験及びマッチングの利用

(4) 問い合わせ先及び資料請求先

〒880-8510 宮崎市北高松町5番30号 県立宮崎病院 事務部
電話 (0985) 24-4181 FAX (0985) 28-1881

8. 研修歯科医の処遇に関する事項

(1) 常勤・非常勤の別：非常勤、身分は、会計年度任用職員（地方公務員）

(2) 研修基本手当：290,300円/月（時間外等諸手当除く。賞与あり）

(3) 基本的な勤務時間：午前8時30分から午後5時15分まで

(4) 休暇

- ① 有給休暇：雇用の日において5日、6か月経過後さらに5日付与
- ② 夏期休暇：無
- ③ 年末年始休暇：無

(5) 時間外勤務及び当直

- ① 時間外勤務：有
- ② 時間外勤務手当：有
- ③ 当直：無
- ④ 当直手当：無

(6) 研修歯科医の宿舎及び病院内の個室の確保

- ① 宿舎：無（住居手当を支給）
- ② 病院内の個室：研修医室有り

(7) 社会保険、労働保険に関する事項

- ① 公的医療保険：協会けんぽ
- ② 公的年金保険：厚生年金保険
- ③ 労働者災害補償保険法の適用：有
- ④ 雇用保険：有

(8) 健康管理

- ① 定期健康診断：年1回
- ② 福利厚生事業（レクリエーション）の実施

(9) 歯科医師賠償責任保険に関する事項

- ① 病院自体の加入：有
- ② 個人加入：任意、但し加入を推奨

(10) 外部の研修活動

- ① 学会・研究会等への参加：可能
- ② 上記の参加費用の負担：有

II 歯科臨床研修の到達目標

1. 「基本習熟コース」.

(1) 医療面接

【一般目標】

患者中心の歯科医療を実践するために、医療面接についての知識、態度、技能を身に付け、実践する。

【行動目標】

- ① コミュニケーション・スキルを実践する。
- ② 病歴(主訴、現病歴、既往歴、家族歴) 聴取を的確に行う。
- ③ 病歴を正確に記録する。
- ④ 患者の心理、社会的背景に配慮する。
- ⑤ 患者・家族に必要な情報を十分に提供する。
- ⑥ 患者の自己決定を尊重する。(インフォームドコンセントの構築)
- ⑦ 患者のプライバシーを守る。
- ⑧ 患者の心身における QOL(Quality of Life) に配慮する。
- ⑨ 患者教育と治療への動機付けを行う。

(2) 総合診療計画

【一般目標】

効果的で効率の良い歯科診療を行うために、総合治療計画の立案に必要な能力を身につける。

【行動目標】

- ① 適切で十分な医療情報を収集する。
- ② 基本的な診察・検査を実践する。
- ③ 基本的な診察・検査の所見を判断する。
- ④ 得られた情報から診断する。
- ⑤ 適切と思われる治療法及び別の選択肢を提示する。
- ⑥ 十分な説明による患者の自己決定を確認する。
- ⑦ 一口腔単位の治療計画を作成する。

(3) 予防・治療基本技術

【一般目標】

歯科疾患と機能障害を予防・治療・管理するために、必要な基本的技術を身に付ける。

【行動目標】

- ① 基本的な予防法の手段を実施する。
- ② 基本的な治療法の手技を実施する。
- ③ 医療記録を適切に作成する。
- ④ 医療記録を適切に管理する。

(4) 応急処置

【一般目標】

一般的な歯科疾患に対処するために、応急処置を要する症例に対して、必要な臨床能力を身に付ける。

【行動目標】

- ① 疼痛に対する基本的な治療を実践する。
- ② 歯、口腔及び顎顔面の外傷に対する基本的な治療を実践する。
- ③ 修復物、補綴装置等の脱離と破損及び不適合に対する適切な処置を実践する。

(5) 高頻度治療

【一般目標】

一般的な歯科疾患に対処するために、高頻度に遭遇する症例に対して、必要な臨床能力を身に付ける。

【行動目標】

- ① 齲蝕の基本的な治療を実践する。
- ② 歯髄疾患の基本的な治療を実践する。
- ③ 歯周疾患の基本的な治療を実践する。
- ④ 抜歯の基本的な処置を実践する。
- ⑤ 咬合・咀嚼障害の基本的な治療を実践する。

(6) 医療管理・地域医療

【一般目標】

歯科医師の社会的役割を果たすため、必要となる医療管理・地域医療に関する能力を身に付ける。

【行動目標】

- ① 保険診療を実践する。
- ② チーム医療を実践する。
- ③ 地域医療に参画する。

2. 「基本習得コース」

(1) 救急処置

【一般目標】

歯科医療を安全に行うために、必要な救急処置に関する知識、態度及び技能を習得する。

【行動目標】

- ① バイタルサインを観察し、異常を評価する。
- ② 服用薬剤の歯科診療に関連する副作用を説明する。
- ③ 全身疾患の歯科診療上のリスクを説明する。
- ④ 歯科診療時の全身的合併症への対処法を説明する。
- ⑤ 一次救命処置を実践する。
- ⑥ 二次救命処置の対処法を説明する。

(2) 医療安全・感染予防

【一般目標】

円滑な歯科医療を実施するために、必要な医療安全・感染予防に関する知識、態度、技能を習得する。

【行動目標】

- ① 医療安全対策を説明する。
- ② アクシデント及びインシデントを説明する。
- ③ 医療過誤について説明する。
- ④ 院内感染対策(Standard Precautions を含む)を説明する。
- ⑤ 院内感染対策を実践する。

(3) 経過評価管理

【一般目標】

自ら行った治療の経過を観察評価するために、診断及び治療に対するフィードバックに必要な知識、態度、技能を習得する。

【行動目標】

- ① リコールシステムの重要性を説明する。
- ② 治療の結果を評価する。
- ③ 予後を推測する。

(4) 予防・治療技術

【一般目標】

生涯研修のために必要な専門知識や高度先進的技術を理解する。

【行動目標】

- ① 専門的な分野の情報を収集する。
- ② 専門的な分野を体験する。
- ③ POS(Problem Oriented System) に基づいた医療を説明する。
- ④ EBM(Evidence Based Medicine)に基づいた医療を説明する。

(5) 医療管理

【一般目標】

適切な歯科診療を行うために、必要となるより広範囲な歯科医師の社会的役割を理解する。

【行動目標】

- ① 歯科医療機関の経営管理を説明する。
- ② 常に、必要に応じた医療情報の収集を行う。
- ③ 適切な放射線管理を実践する。
- ④ 医療廃棄物を適切に処理する。

(6) 地域医療

【一般目標】

歯科診療を適切に行うために、地域医療について知識、態度及び技能を習得する。

【行動目標】

- ① 地域歯科保健活動を説明する。
- ② 歯科訪問診療を説明する。
- ③ 歯科訪問診療を体験する。
- ④ 医療連携を説明する。

到達目標の達成に必要な症例数と研修内容

到達目標	研修内容	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の考え方	修了判定の評価基準
1 歯科医師臨床研修「基本習熟コース」 【一般目標】 個々の歯科医師が患者の立場に立った歯科医療を実践できるようになるために、基本的な歯科診療に必要な臨床能力を身に付ける。	初診担当日を決め、医療面接を指導歯科医師より指名された症例について行う。	10例	指導歯科医師を決め、レポート作成の際にサポートする。	全ての流れを経験することが望ましいが、流れに沿って正確な医療面接ができるようになった症例を1例として数える。	指導歯科医師が評価。目標達成の基準としてレポート形式にまとめ、1週間以内に提出すること。
(1)医療面接 【一般目標】 患者中心の歯科医療を実践するために、医療面接についての知識、態度及び技能を身に付け、実践する。					
【行動目標】					
(1) コミュニケーションスキルを実践する。					
(2) 病歴(主訴、現病歴、既往歴及び家族歴)聴取を的確に行う。					
(3) 病歴を正確に記録する。					
(4) 患者の心理・社会的背景に配慮する。					
(5) 患者・家族に必要な情報を十分に提供する。					
(6) 患者の自己決定を尊重する。(インフォームドコンセントの構築)					
(7) 患者のプライバシーを守る。					
(8) 患者の心身におけるQOL(Quality Of Life)に配慮する。					
(9) 患者教育と治療への動機付けを行う。					

到達目標	研修内容	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の考え方	修了判定の評価基準
<p>(2)総合診療計画</p> <p>【一般目標】 効果的で効率の良い歯科診療を行うために、総合治療計画の立案に必要な能力を身に付ける。</p> <p>【行動目標】</p> <p>(1) 適切で十分な医療情報を収集する。</p> <p>(2) 基本的な診察・検査を実践する。</p> <p>(3) 基本的な診察・検査の所見を判断する。</p> <p>(4) 得られた情報から診断する。</p> <p>(5) 適切と思われる治療法及び別の選択肢を提示する。</p> <p>(6) 十分な説明による患者の自己決定を確認する。</p> <p>(7) 一口腔単位の治療計画を作成する。</p>	<p>配当された症例について限られた時間ではあるが、指導歯科医師からのアドバイスを得ながら診断と治療法を導きだす。</p>	10例	<p>指導歯科医師を決め、レポート作成の際にサポートする。</p>	<p>問診、検査の選択。検査所見から得られる情報、的確な診断をたて、治療法の選択を行い、患者に説明できるようにする。</p>	<p>指導歯科医師が評価。目標達成の基準としてレポート形式にまとめ、1週間以内に提出すること。</p>
<p>(3)予防・治療基本技術</p> <p>【一般目標】 歯科疾患と機能障害を予防・治療・管理するために、必要な基本的技術を身に付ける。</p> <p>【行動目標】</p> <p>(1) 基本的な予防法の手技を実施する。</p> <p>(2) 基本的な治療法の手技を実施する。</p> <p>(3) 医療記録を適切に作成する。</p> <p>(4) 医療記録を適切に管理する。</p>	<p>指導歯科医師について適切な指示を受けながら実施する。</p>	5例	<p>担当指導歯科医師からの指示のもとに実施し、終了後にレポートを提出する。</p>	<p>自己管理の徹底と基本的予防法、基本的治療法を身につける。</p>	<p>指導歯科医師が評価。目標達成の基準としてレポート形式にまとめ、1週間以内に提出すること。また、医療記録の作成部分をコピーしレポートに添付させる。</p>

到達目標	研修内容	必要な症例数	研修歯科医師の指導体制	症例数の考え方	修了判定の評価基準
(4) 応急処置 【一般目標】 一般的な歯科疾患に対処するために、応急処置を要する症例に対して、必要な臨床能力を身に付ける。 【行動目標】					
(1) 疼痛に対する基本的な治療を実践する。	1)薬物療法 2)機械的治療 3)外科的療法	10例	指導歯科医師を決め、レポート作成の際にサポートする。	すべての治療過程を経験させる。	指導歯科医師が評価。最後にレポートを1週間以内に提出。また、カルテ内の処置内容の部分をコピーレポートに添付する。
(2) 歯、口腔及び顎顔面の外傷に対する基本的な治療を実践する。	1)軟組織外傷 2)歯牙破折、脱臼 3)骨折 4)顎関節脱臼				
(3) 修復物、補綴装置等の脱離と破損及び不適合に対する適切な処置を実践する。	1)修復物破損及び脱落 2)修復物不適合 3)義歯破損及び不適合				
(5) 高頻度治療 【一般目標】 一般的な歯科疾患に対処するために、高頻度に遭遇する症例に対して、必要な臨床能力を身に付ける。 【行動目標】					
(1) 齲蝕の基本的な治療を実践する。	1)シーラント 2)レジン充填 3)インレー修復	30例	各研修歯科医師に対し指導歯科医師を決め、各目標ごとに適切な指導を行いレポートを提出させる。	当科は外科的処置がほとんどを占めているため、修復治療の症例は限られており、かたよりが大きい、その中でも可能な限り研修を行わせる。	指導歯科医師が評価を行う。また、各レポート作成で、治療法、注意点、等を文献的に調べさせる。
(2) 歯髄疾患の基本的な治療を実践する。	1)抜髄処置 2)感染根管処置 3)生切				
(3) 歯周疾患の基本的な治療を実践する。	1)歯科保健指導 2)スクレーピング 3)ルートプレーニング 4)歯周外科				
(4) 抜歯の基本的な処置を実践する。	1)乳歯抜歯 2)永久歯抜歯 3)埋伏歯抜歯				
(5) 咬合・咀嚼障害の基本的な治療を実践する。	1)歯冠補綴治療 2)部分床義歯 3)全部床義歯				
(6) 顎関節症の基本的な治療を実践する。	1)スプリント作成				

到達目標	研修内容	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の考え方	修了判定の評価基準
(6) 医療管理・地域医療 【一般目標】 歯科医師の社会的役割を果たすため、必要となる医療管理・地域医療に関する能力を身に付ける。 【行動目標】 (1) 保険診療を実践する。 (2) チーム医療を実践する。 (3) 地域医療に参画する。	地域医療のチーム活動に参加。	2例	指導歯科医師が適切なサポートを行う。	地域医療が計画され、実施される過程を理解させる。	レポート作成による評価。
2 歯科医師臨床研修 「基本習得コース」 【一般目標】 生涯にわたる研修を行うために、より広範囲の歯科医療について知識、態度及び技能を習得する態度を養う。					
(1) 救急処置 【一般目標】 歯科診療を安全に行うために、必要な救急処置に関する知識、態度及び技能を習得する。			指導歯科医師を決め、行動目標内容について適切な指導を行う。実践のない場合は、レポート作成の指導を行う。	1～4については、実際に実践させることが可能。5～6についても症例があればその内容をレポートに提出させる。	1～4については指導歯科医師が評価する。5～6はレポートを提出させる。
【行動目標】 (1) バイタルサインを観察し、異常を評価する。 (2) 服用薬剤の歯科診療に関連する副作用を説明する。 (3) 全身疾患の歯科診療上のリスクを説明する。 (4) 歯科診療時の全身的合併症への対処法を説明する。 (5) 一次救命処置を実践する。 (6) 二次救命処置の対処法を説明する。	バイタルサインの観察。 疾病と服薬内容を調べる。 疾病と歯科治療のリスクを調べる。 合併症への対処法を調べる。 一次、二次救命処置について調べ、一次、二次救命処置を実践する。	5例			

到達目標	研修内容	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の考え方	修了判定の評価基準
<p>(2)医療安全・感染予防</p> <p>【一般目標】 円滑な歯科診療を実施するために、必要な医療安全・感染予防に関する知識、態度及び技能を習得する。</p> <p>【行動目標】</p> <p>(1) 医療安全対策を説明する。</p> <p>(2) 医療事故及びヒヤリ・ハットを説明する。</p> <p>(3) 医療過誤について説明する。</p> <p>(4) 院内感染対策(Standard Precautionsを含む。)を説明する。</p> <p>(5) 院内感染対策を実践する。</p>	<p>普段から行われる、医療安全対策について調べる。</p> <p>過去の事例を調べる。</p> <p>実施できた事例をまとめ、レポートする。</p>	5例	<p>研修指導歯科医師がサポートして、事例を把握させる。レポート作成や看護師、医師も交えた討論会を行う。</p>	<p>普段より事例収集をさせながら、医療安全や感染予防に関心を持たせる。また、医療事故やヒヤリハットについての報告書の作成法を習得させる。</p>	<p>指導歯科医師が評価。事例がない場合は模擬事例による報告書を作成させ、評価する。</p>
<p>(3)経過評価管理</p> <p>【一般目標】 自ら行った治療の経過を観察評価するために、診断及び治療に対するフィードバックに必要な知識、態度及び技能を習得する。</p> <p>【行動目標】</p> <p>(1) リコールシステムの重要性を説明する。</p> <p>(2) 治療の結果を評価する。</p> <p>(3) 予後を推測する。</p>	<p>下記症例群に分類して治療経過を調べる。</p> <p>1) 抜歯術 2) その他の小手術 3) 入院、全身麻酔症例(癌・良性腫瘍・骨折・顎変形症・裂奇形等) 4) 保存的治療 5) 補綴治療</p>	5例	<p>指導歯科医師を決め、各症例群に分けて、普段より、リコールを実施させ、治療経過、予後を観察させる。</p>	<p>当院は治療後に紹介元に返すため、リコールは癌等の特殊疾患しか集まらない可能性があるため、症例がない場合は文献的調査をレポートさせる。</p>	<p>指導歯科医師が評価する。目標達成の基準に達しない場合、文献的調査、レポートを提出させる。</p>

到達目標	研修内容	必要な症例数	研修歯科医師の指導体制	症例数の考え方	修了判定の評価基準
(4) 予防・治療技術 【一般目標】 生涯研修のために必要な専門的知識や高度先進的技術を理解する。 【行動目標】 (1) 専門的な分野の情報を収集する。 (2) 専門的な分野を体験する。 (3) POS(Problem Oriented System)に基づいた医療を説明する。問題指向型システム (4) EBM(Evidence Based Medicine)に基づいた医療を説明する。根拠に基づいた医療	専門的知識に基づき、経験上得られた治療上のテクニックや、知識をもって、患者のために、患者の気持ちになり、根拠に基づいた医療について考えさせる。	5例	指導歯科医師を決め、レポート作成の際にサポートする。	治療経験の無い状態で、POS、EBMに基づいた治療を行うことは不可能であり、指導医が適宜サポートしながら進めていくため、多くの症例をこなすことは困難。症例が限られてくる。	指導歯科医師が評価を行う。目標達成5症例を挙げているが、症例が得られない場合は、文献検索させ、レポートを提出させる。
(5) 医療管理 【一般目標】 適切な歯科診療を行うために、必要となるより広範囲な歯科医師の社会的役割を理解する。 【行動目標】 (1) 歯科医療機関の経営管理を説明する。 (2) 常に、必要に応じた医療情報の収集を行う。 (3) 適切な放射線管理を実践する。 (4) 医療廃棄物を適切に処理する。	歯科医療安全対策と重複する内容であるが、院内での対策事例や、文献的事例等を調べ、理解させる。	5例	担当指導歯科医師を決め、普段から事例のチェックを行い、討論会を開く。	過去の報告書を調査したり、各科の担当医師や、看護師、放射線技師に各科の事例を聞くなど、病院全体の管理を学ぶ。	指導歯科医師が評価。各事例をレポート作成して提出させる。事例数が少ないときは文献検索し、レポート作成させる。
(6) 地域医療 【一般目標】 歯科診療を適切に行うために、地域医療についての知識、態度及び技能を習得する。 【行動目標】 (1) 地域歯科保健活動を説明する。 (2) 歯科訪問診療を説明する。 (3) 歯科訪問診療を体験する。 (4) 医療連携を説明する。	宮崎県歯科医師会または宮崎市群歯科医師会の開催事業に参加させる。一般開業歯科医師の訪問診療を見学させる。	2例	各研修歯科医師を担当する上級歯科医師、指導歯科医師を決め、レポート作成の際にサポートを行う。	地域医療に関わる事例について、レポートをまとめる。グループ討論でも取り扱うこととする。	指導歯科医師が評価を行う。目標達成の基準として2症例以上のレポートを提出すること。

卒後臨床研修歯科医師の到達度評価

(研修歯科医師の自己評価及び指導歯科医師の評価)

卒後臨床研修行動目標及び研修の評価

(態度・積極性・基本的能力の評価)

研修歯科医師名： _____

研修指導医名： _____

研修期間： _____ 年 _____ 月 _____ 日～ _____ 年 _____ 月 _____ 日

評価期日： _____ 年 _____ 月 _____ 日

1. 態度

評価項目	研修歯科医自己評価	指導歯科医評価
1)時間を厳守できる。	a b c d	a b c d
2)通勤時の身だしなみに気を配る。	a b c d	a b c d
3)診療中の身だしなみに気を配る。	a b c d	a b c d
4)患者様に平等に誠意をもって接する。	a b c d	a b c d
5)患者様の意向を尊重する。	a b c d	a b c d
6)患者様の心理背景に配慮する。	a b c d	a b c d
7)職務上知り得た患者様の情報を漏らさない。	a b c d	a b c d

2. 積極性

評価項目	研修歯科医自己評価	指導歯科医評価
1)自ら率先して手技などの練習を行う。	a b c d	a b c d
2)自ら知識を習得する。	a b c d	a b c d
3)カンファレンス(ミーティング)で発言する。	a b c d	a b c d
4)院内・院外の講演会・講習会に出席・参加する。	a b c d	a b c d

3. 基本的能力

評価項目	研修歯科医自己評価	指導歯科医評価
1)患者様が必要とする説明や情報を提供する。	a b c d	a b c d
2)他の歯科医師や職員が必要とする情報を提供する。	a b c d	a b c d
3)安全に配慮して機械・器具を使用する。	a b c d	a b c d
4)清潔・不潔を区別する。	a b c d	a b c d
5)感染性廃棄物を適切に扱う。	a b c d	a b c d
6)画像記録, 各種文書, 模型等の診療記録を整理する。	a b c d	a b c d
7)診療室内を整理整頓する。	a b c d	a b c d

(注) a 特に優れている b 十分である c 要努力 d 評価不能

(基本習熟コース)

1. 医療面接 【経験症例数： 例】

評価項目	研修歯科医自己評価	指導歯科医評価
1)コミュニケーション・スキルを実践する。	a b c d	a b c d
2)病歴聴取を的確に行う。	a b c d	a b c d
3)病歴を正確に記録する。	a b c d	a b c d
4)患者の心理，社会的背景に配慮する。	a b c d	a b c d
5)患者・家族に必要な情報を十分に提供する。	a b c d	a b c d
6)患者の自己決定を尊重する(インフォームド・コンセントの構築)。	a b c d	a b c d
7)患者のプライバシーを守る。	a b c d	a b c d
8)患者の心身における QOL(Quality of life)に配慮する。	a b c d	a b c d
9)患者教育と治療への動機付けを行う。	a b c d	a b c d

2. 総合診療計画 【経験症例数： 例】

評価項目	研修歯科医自己評価	指導歯科医評価
1)適切で十分な医療情報を収集する。	a b c d	a b c d
2)基本的な診療・検査を実践する	a b c d	a b c d
3)基本的な診療・検査の所見を判断する。	a b c d	a b c d
4)得られた情報から診断する。	a b c d	a b c d
5)適切と思われる治療法及び別の選択肢を提示する。	a b c d	a b c d
6)十分な説明による患者の自己決定を確認する。	a b c d	a b c d
7)一口腔単位の治療計画を作成する。	a b c d	a b c d

3. 予防・治療基本技術 【経験症例数： 例】

評価項目	研修歯科医自己評価	指導歯科医評価
1)基本的な予防法の手段を実施する。	a b c d	a b c d
2)基本的な治療法の手技を実施する。	a b c d	a b c d
3)医療記録を適切に作成する。	a b c d	a b c d
4)医療記録を適切に管理する。	a b c d	a b c d

(注) a 特に優れている b 十分である c 要努力 d 評価不能

4. 応急処置 【経験症例数： 例】

評価項目	研修歯科医自己評価	指導歯科医評価
1) 疼痛に対する基本的な治療を実践する。	a b c d	a b c d
2) 歯、口腔及び顎顔面の外傷に対する基本的な治療を実践する。	a b c d	a b c d
3) 修復物、補綴装置等の脱離と破損及び不適合に対する適切な処置を実践する。	a b c d	a b c d

5. 高頻度治療 【経験症例数： 例】

評価項目	研修歯科医自己評価	指導歯科医評価
1) 齶蝕の基本的な治療を実践する。	a b c d	a b c d
2) 歯髄疾患の基本的な治療を実践する。	a b c d	a b c d
3) 歯周疾患の基本的な治療を実践する。	a b c d	a b c d
4) 抜歯の基本的な処置を実践する。	a b c d	a b c d
5) 咬合・咀嚼障害の基本的な治療を実践する。	a b c d	a b c d
6) 顎関節症の基本的な治療を実践する。	a b c d	a b c d

6. 医療管理・地域医療 【経験症例数： 例】

評価項目	研修歯科医自己評価	指導歯科医評価
1) 保険診療を実践する。	a b c d	a b c d
2) チーム医療を実践する。	a b c d	a b c d
3) 地域医療に参画する。	a b c d	a b c d

(注) a 特に優れている b 十分である c 要努力 d 評価不能

(基本習得コース)

1. 救急処置 【経験症例数： 例】

評価項目	研修歯科医自己評価	指導歯科医評価
1)バイタルサインを観察し、異常を評価する。	a b c d	a b c d
2)服用薬剤の歯科診療に関する副作用を説明する。	a b c d	a b c d
3)全身疾患の歯科診療上のリスクを説明する。	a b c d	a b c d
4)歯科診療時の全身的合併症への対処法を説明する。	a b c d	a b c d
5)一次救命処置を実践する。	a b c d	a b c d
6)二次救命処置の対処法を説明する。	a b c d	a b c d

2. 医療安全・感染予防 【経験症例数： 例】

評価項目	研修歯科医自己評価	指導歯科医評価
1)医療安全対策を説明する。	a b c d	a b c d
2)アクシデント、インシデントを説明する。	a b c d	a b c d
3)医療過誤について説明する。	a b c d	a b c d
4)院内感染対策(Standard Precautionsを含む。)を説明する。	a b c d	a b c d
5)院内感染対策を実践する。	a b c d	a b c d

3. 経過評価管理 【経験症例数： 例】

評価項目	研修歯科医自己評価	指導歯科医評価
1)リコールシステムの重要性を説明する。	a b c d	a b c d
2)治療の結果を評価する。	a b c d	a b c d
3)予後を推測する。	a b c d	a b c d

4. 予防・治療技術 【経験症例数： 例】

評価項目	研修歯科医自己評価	指導歯科医評価
1)専門的な分野の情報を収集する。	a b c d	a b c d
2)専門的な分野を体験する。	a b c d	a b c d
3)POS(Problem Oriented System)に基づいた医療を説明する。	a b c d	a b c d
4)EBM(Evidence Based Medicine)を説明する。	a b c d	a b c d

(注) a 特に優れている b 十分である c 要努力 d 評価不能

5. 医療管理 【経験症例数： 例】

評価項目	研修歯科医自己評価	指導歯科医評価
1) 歯科医療機関の経営管理を説明する。	a b c d	a b c d
2) 常に、必要に応じて医療情報の収集を行う。	a b c d	a b c d
3) 適切な放射線管理を実践する。	a b c d	a b c d
4) 医療廃棄物を適切に処理する。	a b c d	a b c d

6. 地域医療 【経験症例数： 例】

評価項目	研修歯科医自己評価	指導歯科医評価
1) 地域歯科保健活動を説明する。	a b c d	a b c d
2) 歯科訪問診療を説明する。	a b c d	a b c d
3) 歯科訪問診療を体験する。	a b c d	a b c d
4) 医療連携を説明する。	a b c d	a b c d

(注) a 特に優れている b 十分である c 要努力 d 評価不能

(経験すべき診察法)

1. 医療面接

評価項目	研修歯科医自己評価	指導歯科医評価
1)医療面接におけるコミュニケーションを身につけ患者様の受診動機，受療動向を把握する。	a b c d	a b c d

2.. 診断

評価項目	研修歯科医自己評価	指導歯科医評価
1)病歴，現象を聞き取り，記録し把握する。	a b c d	a b c d
2)診断を下し，診療計画を立てる。	a b c d	a b c d
3)患者・家族への適切な説明，指示，指導ができる。	a b c d	a b c d

3.. 検査の実施と解釈

評価項目	研修歯科医自己評価	指導歯科医評価
1)血液・生化学検査	a b c d	a b c d
2)細菌検査	a b c d	a b c d
3)生理学的検査	a b c d	a b c d
4)唾液腺造影検査	a b c d	a b c d
5)細胞診，病理組織検査	a b c d	a b c d

4. 検査の選択と結果の解釈

評価項目	研修歯科医自己評価	指導歯科医評価
1)血液・生化学検査	a b c d	a b c d
2)細菌検査	a b c d	a b c d
3)生理学的検査	a b c d	a b c d
4)X 線検査	a b c d	a b c d
5)CT, MRI, US 検査	a b c d	a b c d

(注) a 特に優れている b 十分である c 要努力 d 評価不能

5. 基本的治療

評価項目	研修歯科医自己評価	指導歯科医評価
1)薬剤の選択・処方	a b c d	a b c d
2)採血	a b c d	a b c d
3)注射	a b c d	a b c d
4)印象採得，保護床作製医療記録	a b c d	a b c d

6. 医療記録

評価項目	研修歯科医自己評価	指導歯科医評価
1)診療録を POS(Problem Oriented System)に従って記載し管理できる。	a b c d	a b c d
2)処方箋，指示箋を作成し，管理できる。	a b c d	a b c d
3)診断書，その他の証明書を作成し，管理できる。	a b c d	a b c d
4)紹介状，回答書(返書)を作成でき，管理できる。	a b c d	a b c d

(注) a 特に優れている b 十分である c 要努力 d 評価不能

(歯科口腔外科研修内容)

1. 診査の手順、検査の進め方および診断への導き方

評価項目	研修歯科医自己評価	指導歯科医評価
1)問診	a b c d	a b c d
2)漸進的、局所的現症の把握(視診、触診、聴診、打診)	a b c d	a b c d
3)一般検査 I : バイタルサインのチェック	a b c d	a b c d
4)一般検査 II : 臨床検査成績、病理組織学的検査のチェック	a b c d	a b c d
5)画像診断の適応、判読、画像診断の解剖学的理解	a b c d	a b c d
6)スタディ-モデルによる審査、ペーパーサーージェリー	a b c d	a b c d
7)顎・顔面・口腔の写真撮影、資料整理	a b c d	a b c d

2. 疾患別診断と治療方針の立て方

評価項目	研修歯科医自己評価	指導歯科医評価
1)炎症性疾患	a b c d	a b c d
2)感染症	a b c d	a b c d
3)顎・顔面外傷	a b c d	a b c d
4)口腔粘膜疾患	a b c d	a b c d
5)ウイルス性疾患	a b c d	a b c d
6)リンパ節疾患	a b c d	a b c d
7)唾液腺疾患	a b c d	a b c d
8)良性腫瘍	a b c d	a b c d
9)悪性腫瘍	a b c d	a b c d
10)嚢胞性疾患	a b c d	a b c d
11)顎関節疾患	a b c d	a b c d
12)顎変形症	a b c d	a b c d
13)先天性奇形	a b c d	a b c d
14)神経疾患	a b c d	a b c d
15)有病者の診察と診療上の注意	a b c d	a b c d

(注) a 特に優れている b 十分である c 要努力 d 評価不能

3. 外科の基本手技の修得

評価項目	研修歯科医自己評価	指導歯科医評価
1)滅菌・消毒法	a b c d	a b c d
2)機械・器具の名称と使用法	a b c d	a b c d
3)注射法：点滴、静脈注射、筋肉注射、皮下注射	a b c d	a b c d
4)麻酔法：表面麻酔、浸潤麻酔、伝達麻酔	a b c d	a b c d
5)縫合法：縫合の手技、結紮の方法	a b c d	a b c d
6)止血法：局所的止血法、全身的止血法	a b c d	a b c d
7)試験穿刺法、試験切除法	a b c d	a b c d
8)創傷への処置法：創傷の分類、創傷治癒の一般概念	a b c d	a b c d
9)救急処置：歯科におけるショックとその処置	a b c d	a b c d
10)口腔外科治療における偶発症とその対策	a b c d	a b c d

4. 口腔内小手術術式の修得

評価項目	研修歯科医自己評価	指導歯科医評価
1)抜歯術：普通抜歯、埋伏歯などの難抜歯	a b c d	a b c d
2)消炎手術：口腔内、口腔外からの膿瘍切開および後処置	a b c d	a b c d
3)補綴前の外科的処置：小帯切除術、歯槽骨整形術	a b c d	a b c d
4)嚢胞摘出術	a b c d	a b c d
5)歯根端切除術	a b c d	a b c d

5. 薬物療法

評価項目	研修歯科医自己評価	指導歯科医評価
1)抗菌剤の選び方と使い方	a b c d	a b c d
2)消炎鎮痛剤の選び方と使い方	a b c d	a b c d
3)止血剤の選び方と使い方	a b c d	a b c d
4)その他の口腔領域でよく使われる薬剤	a b c d	a b c d

(注) a 特に優れている b 十分である c 要努力 d 評価不能

6. その他

評価項目	研修歯科医自己評価	指導歯科医評価
1)患者に対する診療上のマナー	a b c d	a b c d
2)カルテ(診療録)の書き方	a b c d	a b c d
3)他科・他院への紹介状・返書の書き方	a b c d	a b c d
4)診断書の書き方	a b c d	a b c d
5)インフォームドコンセント	a b c d	a b c d
6)周術期の管理と病棟での処置	a b c d	a b c d

7. 口腔外科診療時に必要な補助装置の作成

評価項目	研修歯科医自己評価	指導歯科医評価
1)各種スプリント作製	a b c d	a b c d
2)保護床作製	a b c d	a b c d
3)オブチュレーター作製	a b c d	a b c d
4)線副子の作製	a b c d	a b c d

(注) a 特に優れている b 十分である c 要努力 d 評価不能

(高頻度療法研修内容)

I. 補綴治療

評価項目	研修歯科医自己評価	指導歯科医評価
義歯調整	a b c d	a b c d
増歯	a b c d	a b c d
義歯修理	a b c d	a b c d
リベース	a b c d	a b c d
全部鑄造冠治療	a b c d	a b c d
前装冠治療	a b c d	a b c d

2. 保存治療

評価項目	研修歯科医自己評価	指導歯科医評価
レジン修復治療	a b c d	a b c d
インレー修復治療	a b c d	a b c d
知覚過敏治療	a b c d	a b c d
抜髄治療	a b c d	a b c d

3. 歯周治療

評価項目	研修歯科医自己評価	指導歯科医評価
基本検査, 精密検査	a b c d	a b c d
スケーリング	a b c d	a b c d
SRP	a b c d	a b c d

4. 顎変形症

評価項目	研修歯科医自己評価	指導歯科医評価
セファロ分析	a b c d	a b c d
ペーパーサージェリー	a b c d	a b c d

(注) a 特に優れている b 十分である c 要努力 d 評価不能

【総括的評価】

令和 年 月 日

研修歯科医師名 _____

診療科施設名 _____

評価者名 _____

到達目標を ABCD の 4 段階に分類評価し、項目別到達度と総合到達度をそれぞれ判定すること

A(3)：きわめて十分達成できた。B(2)：十分達成できた。C(1)：一応達成できた。D(0)：達成できなかった。

	評価項目	項目達成度	総合到達度
知識	想起レベル	A B C D	
	解釈レベル	A B C D	A B C D
	問題解決レベル	A B C D	
態度	診療・技巧	A B C D	
	患者(家族、付添)	A B C D	
	スタッフ、指導歯科医師	A B C D	A B C D
	同僚、後輩	A B C D	
	教育・研究	A B C D	
	自己学習(コミュニケーション)	A B C D	
技術	診療技術	A B C D	
	管理技能(診療, 患者など)	A B C D	
	コミュニケーション技能	A B C D	A B C D
	情報記録(診療録等)	A B C D	
	文献検索と EBM	A B C D	
情報	臨床情報(医療面接)	A B C D	
	診察・臨床検査	A B C D	A B C D
	医療情報管理	A B C D	
	研修情報管理(ポータル)	A B C D	
総合判定	倫理	A B C D	
	心理	A B C D	A B C D
	論理	A B C D	
概略評定	プロフェッショナリズム	A B C D	A B C D
総合評価		A B C D	A B C D
	歯科医療者としての適性(※)	あり	なし

※「厚生労働省医政発令第 0628012 号歯科医師法第 16 条の 2 第 1 項に規定する臨床研修に関する省令の施行について」に準拠